広報 肱川

人口と世帯

	昭和41年（1月末）	昭和46年（1月末）	昭和51年（1月末）
人口	2,815人	2,330人	2,075人
男	2,939人	2,345人	2,147人
女	5,754人	4,675人	4,222人
計			
世帯数	1,257世帯	1,180世帯	1,098世帯

転入した人　19人
転出した人　14人

お誕生おめでとう

小藪　久保福盛さん三男浩昭ちゃん
月野尾　冨永建夫さん三女順子ちゃん
敷水　谷田善和さん二女和恵ちゃん

おくやみ申し上げます

中野　曽根チョノさん（82才）
協生　桜田　力子さん（78才）
町　伊藤　鉄男さん（55才）
協生　宮本　国友さん（71才）
中野　上田　福明さん（54才）
協生　中田　熊夫さん（75才）

より豊かな人間性を目ざして

肱川町の学校教育から

現在の社会は、目まぐるしい変化のさ中にあり、混乱しています。教育は、この社会の変化と無関係ではありません。むしろ、教育は、社会に適応し、社会を変化させてゆく大きな役割を担っています。そこで今月は、肱川町の教育から、学校教育の一端をみてみました。

高い知性とあたたかい心情

肱川町の昭和五十年度の学校教育方針は、全人教育を基盤として、教育は常に未来を選択し、創造するものであるという基本理念の立場から、豊かな人間性の育成を図る学校教育の充実を強く進めています。

そして、重点目標として

●自主創造性の育成と個性、能力の伸長。
●豊かな情操と道徳的実践力のかん養
●児童生徒指導体制の強化と非行防止の徹底。
●「大切に」運動への積極的参加と実践。
●学校施設設備の整備充実

等を定め、新しい社会、文化の創造と発展に寄与する人づくりを進めています。

また、地域性を生かした学校経営の方針をもとに、各小・中学校では、それぞれに、地域の実情を考え、地域性を生かした特色ある学校経営をしています。

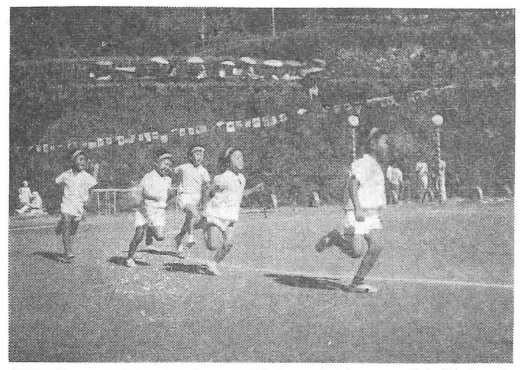
（説明）愛の巣箱つくりで「大切に運動」の精神を（岩谷小で）

愛の学校づくりへ　中野小学校

目標を、・よく考える子・助け合う子・頑張りぬく子の三点においています。

そして、目標の効果的達成をめざすには、まず、教師が、使命感を確立し、子どものために「この道より我が生かす道なし、この道を歩く」を深化させ、「教壇で子どもと勝負しよう」を合言葉としています。

子どもと父母と教職員が相互に信頼と敬愛に満ちて愛の学校づくりに一丸となっています。（児童数一六六人、教職員十二人）



（説明）この子らにとって将来の夢は…。（大谷小で）

郷土愛にもえる　大谷小学校

「大谷君、誕生日おめでとう」生れて来たことの喜び、生きていることの楽しさを子供に感じさせたい。

校長は授業をしないから、子ども達と話す機会が少ない。校長は学校の父親であるから、せめて、子ども達のそれぞれの誕生日には、その子ども達と話をしようという校長先生。給食後、校長室で、誕生日を迎えた子どもと校長先生の対話はあたたかくはづみます。

目標は、・たくましく・明るく・やさしい大谷の子の育成。

そのために、ここでは教師の個性を生かし、創意に満ちた学校づくりを第一と考えます。そして、保育所学校、家庭、地域社会との連けいを密に、郷土愛、地域の連帯感を育てながら、子ども一人一人を伸ばす指導に努めています。（児童数七十六人、教職員九人）

温情かよう正山小学校

京の森を北に仰ぐ高台にあるこの学校は、昨年、念願の学校プールが完成し、体力づくりに効果が出てきました。

目標は、・健康で明るい子・仲よく協力できる子・実践力を身につける子の育成です。

そのために、教職員は、学校や地域の実態をよく考え、まず巾広い研修と職場の明るい人間関係の増進を図っています。そして、家庭との緊密な連絡のもとに自主的で、健康であたたかい心情のある子どもの育成に全力投球しています。（児童数一〇六人、教職員九人）

緑の丘に心を結ぶ　予子林小学校

自然の恵みを受けた緑の丘、これほど、恵まれた環境をもつ学校もめずらしい。

昨年は、開校百年記念事業が実施され、それを一つの節に、今年は、新たな発想によるへき地教育の実をあげています。

ここも、複式学級が二つありますが、・明るく強く・よく考える・仲の良い子を目標に、教職員は、まず健康で、子どもを愛し、研究創造する教師となり、すべてのものを大切にするあたたかい学校づくりを進めています。予子林の子は、緑の丘に固く心を結び合い元気です。（児童数三十六人、教職員五人）

頑張りやの岩谷小学校

（説明）中学校マラソン大会のスタート

山なみの緑あかるく大銀杏深く根をはる。わき水湧き、我が親の命つたえし岩谷の里で、今人の道求めて共に学ばん。

岩谷は、児童数が減少し二つの複式学級があります。しかし、子ども達は、非常にのびのびと育っています。今年は、学校プールも完成しました。

・よく考え・自ら進んで行い・みんなと仲よくする子を目標に、へき地性を克服する斬新的な教育が根をおろし、強く推進されています。

そして、何よりも校長先生を始め教職員の創意を生かした、生き生きとした学習指導と明るく美しい整然とした環境づくりは、目を見はります。

家庭、地域との連けいよろしきを得て、岩谷は、ますますのびてくることでしょう。（児童数四十一人、教職員六人）

敬愛・自主・練磨の肱川中学校

本町に唯一の肱川中学校は、統合十五年の間に築かれた素晴しい伝統を受けつぎ、心身共に健全な生徒の育成をめざし、調和と統一のとれた豊かな人間性を育てることを目標に、自主的であたたかい心情をもつ、たくましい生徒づくりに頑張っています。

昨年度は、県の体育指定校として「体力づくり」により、自主性と運動能力の伸長、さらに、たくましい意志力、実践力を育てる教育に、教職員と生徒が一体となり、素晴しい成果を上げました。また、本年も、引続き、体力づくりと生徒達自ら考えだしたハッピー運動を続け、さらに、正しい判断力を育成するため、学力の向上を強く進めています。

二十一世紀の新しい社会を担う子どもには、自主的情報を処理でき動力、多くの正しい判断力そして、創造する豊かな思考力が要求されます。これが達成のため、教職員は、自覚と使命感にもえ家庭的な親和、協力、団結を図りながら、それぞれの個性を生かしています。（生徒数二四一人、教職員十四人）

地域に根ざした学校づくりを

今日、学校と地域社会が大きく変ぼうしている中で学校は地域から孤立しているといわれます。また、学校は、個性が失われ画一的になってきたともいわれます。しかし、肱川町における地域性に根ざした固有のものを持っており、それが地域社会との連けいのもとに発展していることはよろこばしいことです。

豊かな人間性を育てるための教育は、まず、子どもの生活とその舞台である地域を大切にすることから始まります。そして、教育活動の中に、地域の自然が、社会が、文化が生かされ、その過程で、子ども達が、生活を見つめ、高めようとする意欲や探究心が芽生えさせ健全な心身が育ちます。教育活動を通じて、地域住民が結び合い、地域と学校と父母、とも教育を高めていく体制が育ちます。

人間形成は、学校教育だけでは不充分であり、学校、家庭、地域社会が、それぞれ分担し、互いに連けいの役割を強め、一貫していけば、子どもの人間性の育成ども達の教育にあたらなければならない。学校を地域に開き、とも連けいし、子ども達に協力しあう体制をつくることは、重要な課題でありましょう。

集音マイク

○救急車初出動。（1月2日）
○仕事はじめ、全職員役場階上に集合。きびしい状況に応じて、一段の努力を誓う。（1月5日）
○「農林業振興で意志の統一と協力を」町、農協、森組、職員合同研究会開く。（1月7日）
○女子二二人、男子二二人めでたく成人式。以前の成人者よりおとなしいのが目だつ。（1月15日）
○カーブミラー要望か所の調査実施。八〇か所中県道分をのぞき三〇か所を第一次決定。（1月16日）
○養蚕婦人部、センターで冬の管理講習。春蚕にむけてスタート。（1月13日）
○「町民の立場にたってなかなかよくやっとる」と横田部落長代表よりお褒めにあずかる。職員一同恐しゅく。（1月21日）
○保養センター開所四周年記念書道コンクール審査会、雪にかこまれたセンターで。諸先生の熱心な討議を経て入賞きまる。カタカナに弱い。高学年は高学年だけのねうちあり、との評。（1月22日）
○町誌へんさん事業順調に進捗中。（1月23日）
編さん理事会。
○「路側に白線を」、「道路工夫さんに感謝、ただし町の指導不足もある」、「税を公正に」等々意見活ぱつ、とくに女性の発言多出。大谷地区懇談会。（1月25日）
○高校裏の橋かけかえ工事発注決定。
○町道維持管理規程も大巾改正、地元負担の軽減きまる。臨時議会。（1月27日）
○米飯給食、週二回実施を研究する。給食審議会（1月29日）
○旧正月。次第に生活の中から姿を消して、名のみになりつつある。（1月31日）

まちを緑に。祖先を敬おう。（「大切に」運動　三月の目標）

お知らせ

境界での永年性植物の植付け距離をご存じですか。

―農業委員会―

○農業委員会では毎月八日に定例会を開いています。

○農地の交換分合、売買、賃貸借、融資などのあっせんなども含めくご相談下さい。

○一月八日の農業委員会では樹木及び永年性の植物を植えつけるときの基準について再び確認し、境界などの紛争を未然に防止することになりました。

「永年性植物植付けに関する申し合せ」

一、（目的）

この申し合せ事項は農地などの転用により永年性の樹木などを植えつけする農地などの所有者と紛争を未然に防止することを目的とする。

二、（植えつけする場合の境界からの距離）

隣接地の境界よりの距離は次のとおりとする。

(1)造林を目的として植樹するときは境界から四㍍以上とする。

(2)果樹園（栗、柿など）を目的として植樹する時は境界から三㍍以上とし、境界を越すものは切り除くこと。

(3)隣接地が山林の場合境界から一㍍以上とする。

三、（影切り）

農地などの保護を目的とした影切りは隣接の土地所有者と充分に話し合い相互理解のもとに農産物生産上支障のないよう、常識的に判断して境界線を越した障害物を除去するものとする。

(1)（話し合いによらない処理）

相手方がどうしても話し合いに応じないときは文書で相手方に通告し一定期間（三十日間）を経て除去する。

三、（適用除外）

この申し合せはすでに特殊な契約および慣行による関係者間の取り決めならびに調停があった場合はそれによること。

五、この申し合せ事項は昭和四十七年八月一日から実施している。

※最近栗町道などの樹木が道路上（町道など）をおおって交通のじゃまをしている場合が多くみられますが、樹木などの所有者はお互い注意し合って常識的に判断して交通のじゃまにならないよう除去して下さい。

婦人がん集団検診

とき　三月八日、十三時―十五時
ところ　肱川町公民館
対象　三十才以上の方で昭和五十年十一月に受診していない方
検査料　三〇〇円
受診申込方法　地区の婦人会又は役場町民課まで申込み切　二月末日

妊婦健康相談

とき　三月十日、十三時―十五時
ところ　肱川町公民館

乳児健康相談

とき　三月十七日、十三時―十五時
ところ　肱川町公民館

人権法律相談

とき　三月十五日（月）十時―十五時
ところ　肱川町公民館

恩給相談所が開かれます

旧軍人に対する恩給等について昨年法改正が行われましたが、次の二点について相談所が開設されます。新制度ですから該当者は利用して下さい。

◎加算年の年額計算への算入

◎旧軍人に対する一時恩給等支給範囲の拡大

和

要件の緩

実在職年の年数が四十年未満の旧軍人、又は旧準軍人及びその遺族で七十才以上とされていたものが六十五才以上に年令が引き下げられた。

兵たる旧軍人に対する一時恩給等、引き続く実在職年が三年以上七年未満の兵たる軍人又はその遺族に対し一時恩給又は一時扶助料が支給される。

日時　二月二十七日（午前十時～午後四時）

会場　大洲中央公民館

㊟個別に指導してくれますので、相談に行かれる方は軍歴資料、筆記用具、印等を持参して下さい。

心配ごと相談

二月二十五日　福田、堀尾相談員
三月五日　谷本、兵頭、都谷相談員
三月十五日　宮本、下石相談員
三月二十五日　長田、坂本相談員
ところ　肱川町公民館
時間　九時～十六時
（肱川町社会福祉協議会）

不燃物の収集

収集日　三月十五日
収集地区　岩谷、予子林、中津地区（京造、見の越、月の尾部落）

※収集日の前日中に所定の場所まで出して下さい。

お知らせ

三惚れの精神で

福山義一さん

福山さんの経歴を見るとただ。

―どんなことを反映させたいか―

まず部落間連絡道と部落間農道の整備。小規模基盤整備、当町の大きな産物の一つ椎たけの原木林の育成。それから一番大事なことは、一生懸命築いて来た農業を継いでくれる後継者の養成だ。資金貸付でも現実に合わせた制度がほしい。

―農業の取りくみ方について―

農産物の値段が上がるとすぐに飛びつき、下がるとやめてしまうという中途半端な気持ではできない。それと、少し調子が悪くなるとすぐに政治が悪いと文句をいうより自分でやれることは、責任を持ってやる気持も大事だ。何かに頼るだけではうまく行かないと思う。

―生活の信条は―

「三惚れ」ということを信条にしている。

まず、一つには、自分の仕事に惚れ、二つには、自分の嫁さんに惚れ、三つには、自分の住んでいるところ「地域」に惚れる。これが、家庭や部落の円満につながると思う。

福山義一さん

仕事に、嫁さんに、地域に惚れることが大切だ――と福山さん

現在三期目で、文教厚生委員長。家庭では、二男三女の父親。現在は奥さんと長男二女の四人家族五十七才　協生部落

議員さん出番です

議員に出た動機は―

部落の先輩達に勧められ無学だから自分の勉強にもなるし自分の考えを町政に反映できたらと思ったから積極的に家畜商もやっている。若い時かなり苦労があったように思われる。

悪質な金融業者にご用心

最近経済不況に便乗して暴利をむさぼる悪徳業者やもぐり業者が増え、これに目をつけた暴力団の進出も目立っています。

◎悪徳業者や暴力団にかからぬ一般常識

○最高利息は一日当り〇・三％（日歩三十銭）以上利息を違反。

○利息を天引きされたときは、受けとった金額が元本となる。

○保管料、手数料、調査料などはすべて利息とみなされる。

◎利用者の留意点

○評判のよい業者を利用する。

○契約書の内容をよく確め、白紙に印鑑を押さない。

○保証人になるときは、よく注意する。

～借金について納得のいかないとき、被害をうけたときはすぐ警察へ～

インタビュー

仲間づくりで新しい伝統を

肱川中学校生徒会長　椎野睦均君

よい大人になるためにも仲間づくりをして肱川を大切にしもっとよい町にしたい――と椎野君

二月五日は「少年の日」。肱川中学校では、恒例の「少年式」が厳粛に行われ、そのあと少年の主張発表会があり、十四才を迎えた二年生を、学校あげて祝福し激励しました。

椎野君も今年十四才、この少年式の一人です。彼は、「決意の日となった」感想を「今までは、先生や両親に頼って、自主性に欠けていたので、今後は自分で考え、行動し、学校や家庭、そして社会のために、役立つ人間になりたい」と語ります。

昨年十二月の役員改選で新しく生徒会長に選ばれた椎野君。「肱川の良い環境で育った僕達はとても恵まれていると思う。僕は、よい大人になるためにも、又肱川を大切にしてもっとよい町にするためにも、仲間づくりをして、皆んなが団結して、手を取り合って生きてゆけるようにしたい。又、皆んなの力を借りて、新しい何かをつくり、素晴らしい肱川中にしたい。」とはりきっています。

童顔で、明るい笑顔が印象的な彼は、学校で一番嬉しいことは、仲間が沢山出来ることだそうです。「勉強は、あまり好きではないが、進学したい。将来の道は、まだ決めていない」と話します。

椎野君は、生徒会長のほか、VYSの副会長としても活躍しています。

「上鹿野川では、子供会も、とても盛んで、大人の人達も熱心なのでありがたいです。VYS活動を通して、子供会の育成や奉仕活動を進めて、社会に、あたたかい心をかよわせたい」と話します。

家庭は、ご両親と妹が一人、「妹からは、ただの兄が、両親からは長男なので、将来は両親をみていくつもりです」又「両親に甘えてばかりいる息子であり、くっつくようにしたい」とつけ加えました。

新生徒会長を中心に、肱川中全学校が、ますます発展していくよう祈ります。

大屋敷・小倉が優秀賞　学校では大谷小

―花いっぱいコンクール―

十月の「大切に」運動目標にちなんで募集していた〝グループの花いっぱいコンクール〟は、小学校五校、一般八グループの応募がありました。

審査の結果次のとおりきまりました。

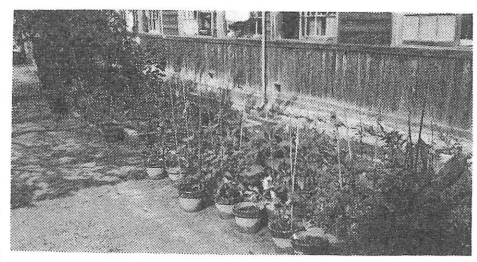
なお、最優秀賞はありませんでした。

（小学校）

優秀賞　大谷小
努力賞　正山小、岩谷小

（一般）

優秀賞　大屋敷班婦人会
努力賞　小倉部落
大谷公民館
予子林公民館



花も、子どもの心もとても清く、イキイキとしてきもちのよかったグループ花壇（大谷小で）

おらが部落はヨオー

戸数六一戸と二六七人。立地条件の良し悪しは別として煙草、養蚕椎茸と何でもやれる土地である。

部落構成は、四つの班から成り廻りを山に囲まれたすり鉢の底辺に、部落の公民館と、集会所の二つが並行し、北側にかあさん広場（未完成）とプールがある。ちょっと贅沢な感じだが。部落の脳細胞の役割を受持つ場所だけに必要欠ぐべからざるものである。

かっての経済の高度成長の波にのって、所得の増大、生活水準の向上、農畜産物の需要の変化、土地利用者の変貌は著しく変化し、選択的拡大をお題目に何でもかんでも大きいことはいいことだということで、農業投資の増大と経営の粗放化。その皺寄は必然的に多くの兼業農家を生み出した。私達は毎月公民館に集まり定例の常会を開くこの日だけは仕事を休み全員が参加する。

中居谷　西山光晴

そして時間の許す限り納得の行くまで意見の交換を行う。また春秋には、八幡神社の大祭でお神楽やお祭りが催され老若男女が集まって盛大な酒盛が行われ神様と人間の交流が行われる。また毎月婦人の集いが開かれるが中でももっとも評判のよいのは家族ぐるみのお花見で婦人会の腕自慢の料理で過す一日はまた格別である。

石油ショックの影響で出稼ぎのUターン現象と自立農家を目指す気運が高まって来た。今年度の地域振興事業で耳取り、京の森の農林道を計画中。これを契機として愛の森、耳取り、京の森の路線を実現し隣接町村の主要道路を山の上で連結して完全舗装の観光ハイウエイとして、京の森に天望台を設置。東に石鎚連峯西に神南山、南に鬼が城と拝し北は耳取りの古戦場と想いは様々。肱川河辺と五十崎にまたがる動脈として、農林道としての開発はもちろんこれに即した土地造成と大型の自立農家を目指す人々の心の中に新鮮な威風と太陽を送り込む日が遠からず来ることを夢見て今日も私は下界を眺めて居る。!!

目を大切にしましょう。

（夜ふかしやテレビの見すぎに注意して　あなたの目をきれいに。）